

**湿地性カラー熊本県育成品種「熊本FC01」、「熊本FC02」における株養成技術の影響**

湿地性カラーにおける①収穫期後の切り戻し、②低温期の株整理および③根圏制限下での夏季の中干しは、収量と切り花長の確保を困難にする。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 工藤陽史)

## 研究のねらい

湿地性カラーの栽培では、株の養成を目的とした管理を模索している。そこで、生産地で行われている管理の効果を明らかにすることを目的に①収穫期後の切り戻し、②低温期の株整理および③根圏制限下での夏季の中干しが収量および切り花長に及ぼす影響を明らかにする。

## 研究の成果

1. 収穫期後の切り戻しは、無処理に比べて収穫期前半の収量が少なく、切り花長も短くなる (表 1、図 1)。
2. 低温期の株整理は、「熊本FC01」は「ウェディングマーチ」と同様に株整理後の収量が減るがその後増加する、「熊本FC02」は春に収量が増加する品種特性に反して 3 月の収量が減少する (表 2、図 2、図 3)。
3. 根圏が制限されている条件下での夏季の中干しは、「熊本FC02」では欠株の発生が 40%と高く、冬季の草丈も「ウェディングマーチ」と比べて「熊本FC01」は同程度、「熊本FC02」は低い (表 3、図 4)。

## 普及上の留意点

1. 切り戻し試験と低温期の株整理試験は、水田圃場で栽培している 2 年目株を用い、管理は、水を周年かけ流し、夏季は 85%寒冷紗被覆、H24 年 10 月 9 日に寒冷紗除去とハウス回りのスカート設置、H24 年 11 月 6 日にビニル被覆した。切り戻しは、株もとから 30 cm の高さで実施した (図 1)。株整理試験は切り戻し試験の無処理区の株を用いて株当たり 5 仮軸となるように H25 年 1 月 25 日に実施した (図 2)。
2. 根圏が制限された条件下での夏季の中干しの影響は、幅 60 cm、土深 18 cm の隔離床栽培で行った試験結果 (図 4) である。鋤床があり、作土層が浅い圃場での栽培の参考に資する。

【具体的データ】 No. 634 (平成 26 年 5 月) 分類コード 0 2 - 0 5 熊本県農林水産部

表1 収穫終了後の切り戻しが11月下旬~1月下旬の  
収量および切り花長に及ぼす影響

品種	切り戻し 有無	株当たり 収穫本数 (本/株)	切り花長 (c m)
「ウェディングマーチ」	なし	6.5	77.8
	あり	4.3	67.2
「熊本FC01」	なし	10.2	86.2
	あり	9.5	77.7
「熊本FC02」	なし	4.8	81.2
	あり	2.8	69.0

n=6 定植2年株 水田圃場での試験

切り戻し実施日: H24年5月20日

収穫調査実施期間: H24年11月20日~H25年1月25日



切り戻した状態

図1 切り戻し試験の実施状況

表2 低温期の株整理の影響

品種	株当たり 収穫本数 (本/株)	切り花長 (c m)	3/26調査 草丈 (c m)
「ウェディングマーチ」	10.7	82.7	85.8
「熊本FC01」	12.7	89.0	96.3
「熊本FC02」	3.9	75.7	64.9

n=6 定植2年目株 水田圃場での試験

調査期間: H25年2月1日~4月10日

調査対象切り花: 切り花長60cm以上、商品性を有するもの



図2 株整理試験の実施状況

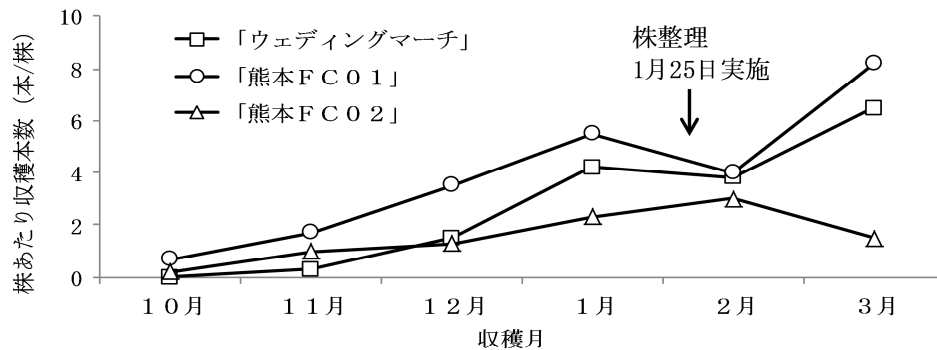


図3 低温期の株整理が株整理後の切り花収穫本数に及ぼす影響

n=6 定植2年目株 水田圃場での試験

株整理は1株あたり5仮軸とした

調査対象切り花: 切り花長60cm以上、商品性を有するもの

表3 根圏が制限された状態での夏季中干しの影響

品種	欠株率 (%)	株当たり仮軸数 (本/株)	草丈 (c m)
「ウェディングマーチ」	30	3.3	57.0
「熊本FC01」	0	3.2	58.8
「熊本FC02」	40	3.1	43.3

n=10 定植2年目株 隔離床栽培 (土深18cm)

中干し期間 H24年6月1日~9月4日

調査日 H25年1月23日

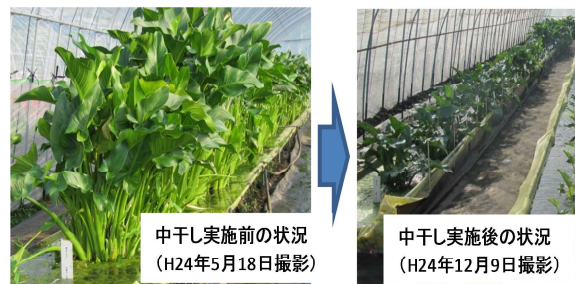


図4 夏季中干し試験の実施状況